

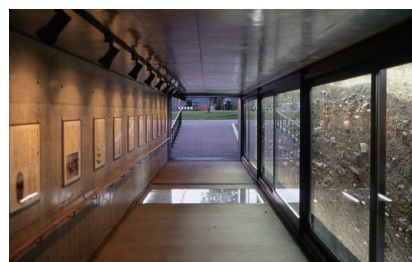
世界遺産に登録された 「北海道・北東北の縄文遺跡群」を巡ろう!



「北黄金貝塚」の復元された竪穴建物（縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会）



「北黄金貝塚」では復元された貝塚も見どころ
（伊達市教育委員会）



「入江貝塚」の貝層露出展示施設
（洞爺湖町教育委員会）

2021年7月、国内で大きな話題を呼んだ「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産への登録。1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟によって定住した縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産として、北海道・青森県・岩手県・秋田県に点在する計17の縄文遺跡が、その価値を世界的に認められたものです。

道内では、高い土手で囲まれた共同墓地「キウス周堤墓群（千歳市）」や、内浦湾に面した大規模な貝塚を伴う集落跡「北黄金貝塚（伊達市）」、魚骨や哺乳類の骨とともに埋葬された多数の人骨が発見された「入江・高砂貝塚（洞爺湖町）」が石狩・胆振エリアに集結。

渡島エリアには、100棟を超える竪穴建物跡、祭祀場など集落の痕跡を残す「大船遺跡（函館市）」や、居住する竪穴建物と墓が区分された集落が形成された「垣ノ島遺跡（函館市）」があり、これら計6カ所が構成資産に。各遺跡の周辺にはガイダンス施設もあり、出土品などの展示が充実しています。さらに道内最大規模の環状列石が残る「鷺ノ木遺跡（森町）」も、世界遺産の構成資産と一体となって活用する関連資産として見どころ満載。

これらの遺跡巡りには車でのアクセスが便利。道央自動車道を利用すれば、2日程度で全てを周遊することも可能です。週末は、世界遺産ツーリズムなんていかがでしょうか。



「大船遺跡」の深さ2.4mにおよぶ大型の竪穴建物跡
（函館市教育委員会）



世界遺産登録された北海道の縄文遺跡群

写真出典／JOMON ARCHIVES(<https://jomon-japan.jp/archives>)